Arai HELMET News

(株)新井広武　〒330埼玉県大宮市東町2－12 ☎0486(41)3825～7

平 忠彦の場合

写真提供：モーターサイクリスト

ロードのエキスパートライダーってどんな人なのか、何を考え、どんな生活をしてるか、興味を持った事ありませんか？観客席からはなかなか分らないでしょう。そこで今回は、79年ダントツの成績で、ジュニア350のチャンピオンを取り、今年は国際A 350で健闘中のルーキー、平忠彦の場合をお話ししましょう。

●生い立ち

昭和31年11月12日、福島県の海ぞいの町に四人兄弟の末っ子として生まれる。バイクには小学生時代より特別な興味を持っていた。16才、単身埼玉に出て就職、夜は定時制高校に通う。埼玉を選んだわけは東京近効に近いからと記憶してる。ここでも趣味は車だけ。稼いだ金はすべて車につぎ込み、ただ走りまわってればうれしかった。

●レースとの出合い

75年の春、筑波、全日本ロードレースシリーズ第1戦で、カワサキの清原、ヤマハの片山両選手のデッドヒートを見る。スゴイ迫力だった。この時にコレしかないと決めた。18才。やがてイナレーシングに加わり、レース活動を始める。

始めてのレーサーは先輩から8万円で買った中古のヤマハTD3、空冷250。そして最初の1時間、異次元のスピードに圧倒され、胃袋まで痛くなり、何んでこんな事はじめたかと考え込んだのをおぼえてる。やみつきになり始めなんてこんなものらしい。

それからはメッタヤタラと走り込んだ。コケた回数はかぞえ切れない。始めの一年、練習に行き、コケずに帰った事は一度もなかった。でも不思議に大ケガはしなかった。気力が勝ってたんだろう。この頃コケるのをこわがらず、せめ込んだ経験は、決して無駄じゃなかったと考えてる。

●レースで好きな瞬間

押しがけスタートの前30秒、静まりかえって外の音が聞こえなくなる。体のドキッ、ドキッという鼓動だけがひびく。そして緊張が頂点に達した瞬間スタート。張りつめたものがいっきに吹き出す。その感じが好きだ。

●生活

ジュニアー時代は朝から会社、終ると深夜のガソリンスタンド、人の2倍働いて稼いだ。それを全部つぎ込んでレースを続け、チャンピオンを取った。国際Aに昇格してからは、賞金も入るようになったし、タイヤなどで援助も受けるようになり、いくらか楽になった。今は夜間のスタンドづとめだけ。でも、食って寝る以外は全てレースにつぎ込んでるので、レース以外、何をしょうにも出来ない。だがレースをしててよかったと思ってる。どうしてなんて聞かれても、理くつなんか分らない。

●これから

ヨーロッパでゼニを取れるレーサーになりたい。出来るかどうかやるだけやってみる。もし、レースをしてなかったら、多分平凡な会社員でいるだろう。

●素質（⇔評）

いい意味でマシンに純感。どんな車もそれなりに乗っちゃう。ラインも型にはまらず、どこを通っても同じようなタイムで回ってくる所をみると、何かもってるのだろう。負けん気は強いが、せり合っても頭にきてコケた事がないのだから、クールな面も持ってるらしい。いいチューナーにめぐり合い、走る車に乗れればいい所までいくかも知れない。

●ヘルメット

Arai cLcRX-7。サイズ(57－58)

ファンレターの宛先：埼玉県上尾市南89－17 オートショップ赤石内

Arai キャップ・ステッカー

サーキットキャップ
前に白のししゅう文字。
フリーサイズ。¥2,000。
●送料¥140。

⇔40cm ステッカー
Racing Specialities
ステッカー
セットで¥1,200。トラックやバンのドレスアップに最適です。
●送料¥200。

●カタログご希望の方は、切手60円分同封の上、お申しつけください。